



さくてい 「削蹄のすすめ」

最近、酪農家や肉用牛農家をまわっていると、蹄の伸びた牛をよく見かけます。まず、我が家の牛の蹄を良く見てみませんか？蹄の伸びすぎは、大きな経済的損失につながり百害あって一利なし。今回は、牛の削蹄の重要性についてお知らせします。

1 削蹄の意義

牛の蹄は、1ヶ月に平均5mm伸びます。削蹄を行わずに蹄が伸びすぎて形が悪くなると姿勢も悪くなり、体重の支え方や歩き方に影響し、体型も崩れてしまいます。

その結果、いろいろな傷害や病気が発生し、生産性が低下します。

- ① 乳用牛 乳房や乳頭を傷つけたり、飲水量や採食量が減少し**泌乳量の減少**が見られます。
- ② 肉用牛 痛みによるストレス、飲水量や採食量の減少による**受胎率の低下**が見られます。
- ③ 蹄、肢の変形により、**跛行**（歩行の乱れ）や**様々な蹄病**が発生します。

2 削蹄の実施

日頃から牛を観察し、**定期的な削蹄（年2回）**を実施しましょう。乳牛や繁殖用雌牛に対する削蹄は、分娩2～3週間前に行い、さらに分娩後2～3カ月後に行うのが良いとされています。

3 蹄病とは…

- ①蹄の管理、栄養、牛舎環境・構造、感染、遺伝形質など複数の要因が関与した病気です。
- ②濃厚飼料の多給や飼料の急変による**食餌性の蹄葉炎**、不良な飼育環境下での細菌感染による**趾間フレグモーネ**などがあります。
- ③生産性の低下につながることはもちろん、牛の経済寿命を短くしてしまいます。

4 削蹄の効果

- ①伸びすぎた蹄を削ることで、本来の蹄形が維持され、安定した立ち方ができるようになり、歩き方はもちろん体型も改善されます。
- ②四肢への負重の片寄りを防ぎ、苦痛を取り除くことで**蹄病の発生を予防**します。
- ③蹄のポンプ作用が回復し、蹄内部の血液循環が活発化して、**丈夫な蹄**になります。
- ④肉用肥育牛に対しては、**肥育成績が向上**するという報告もあります。



削蹄前の蹄。
重心が繋（つなぎ）の部分にかかって繋が低くなっています。



削蹄後の蹄。
本来の蹄形を取り戻し、立ち方も正常です。